

里山周辺の住民による地域環境に対する認識

○佐々木智樹 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：里山 住民 認識

里山が、自然環境が開発等による土地利用の改変が進んでしまった近年では、特に都市部においては貴重な景観資源である。さらに生物多様性や文化的な活動の伝承の場としての価値、環境共生の思想が再認識・再評価されつつあるが、里山が近くにあるということが当たり前の生活をしている住民は、住んでいる環境をどのように認識しているのだろうか。里山という（用語からの）視点から日常の住民にとっての環境の認識を明らかにした既往の研究は見当たらない。

そこで本研究は福島県鮫川村の中山間地域における里山とその周辺に対する認識をアンケートにより調査し、分析することで、住民にとって理想とする環境とは如何なるものなのか、そして、その環境を継承していくことの新しい知見を得ることを目的とした。

調査の結果、里山という言葉から連想するものとして、「人間と植物と動物が共生できる環境の農村」、「人と自然の調和、やすらぎの場所」、「憩いの場」、「暖かさと優しさがある」などの回答が得られた。その他、具体的な認識について、定量的な分析を試みた。

京都府南丹市美山町南地区における茅葺き民家の保存および農村景観の保全に対する住民の意向について

○森 大城 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

京都・丹後および兵庫・丹波地域は、伝統的な農村景観が現在でも広域にわたって維持されてきている地域とされ、その中でも京都府南丹市美山町には茅葺き民家をはじめとする伝統的な里山風景（農地および山林を含む農村景観）が良好に残っている地域である。美山町には重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されている北地区がある。北地区に限らず、美山町内には多くの茅葺き民家があり、隣接する南地区も同様である。この南地区は重伝建には選定されていないが、南丹市（選定当初は美山町）は、北地区のみならずその他の地区も保存（や補助等）の対象としていく意向がある。北地区においては詳細な調査を実施した上で、保存地区として維持管理を行っている結果もあり、観光客を受け入れる体制も整っている。一方で南地区の住民がどのように、民家のみならず周辺の農村景観を保全していこうとしているか、現地におけるヒアリングを実施して調査を行ない、北地区とは異なった方向性の基での、意見や要望を取りまとめた。